

The effect of early education for deaf children

Koichi Nakaizumi

Kindergarten department
Hokkaido Asahikawa School for the Deaf

- イロイロ訪問は、94、95、96、99、2000年
以来8年振り、6回目になります。
- 1997年の招聘研修で来日し、当会にも多大
な貢献をされたフェロミナ・ライソンさんが20
02年5月23日、
- 交通事故でなくなりました。
- 私と当会がイロイロ市に来るようになったの
は、ミナ氏の強い誘いがあったためです。
- 彼女は、イロイロ市の聾教育の発展のことを
常に考えており、一生涯を聾教育に捧げた人
です。

- 彼女が亡くなったと聞いた時、早すぎる彼女の死の意味を考え、私がしなければならないことは何かを考えました。
- その結果、ミナ基金を設立し、現在12名の里子の他に、交通費がない子ども達のための援助に役立てています。
- 彼女が92年に学校の検査室のオーディオメータを見て欲しい熱心に誘ってくれたこと、
- 95年にリガネスの施設の必要性を訴えたこと、97年に日本に来て、レストランで物語を聞かせてくれたこと、
- 聾教育の偉大な先輩であるだけでなく、私にとっては第二の母親のような存在でした。







EDMUND T. LAYSON
MARCH 11, 1894 - JULY 8, 1981, 87 YEARS

EDMUND T. LAYSON
MARCH 11, 1894 - JULY 8, 1981, 87 YEARS

- 今回、初めてミナ氏の墓参をすることができ、これから、私たちがすることを彼女に報告しました。
- JICAとの記念すべき共同事業がイロイロ市で始まることも大変、意義深いと感じています。
- 乳幼児の早期発見、早期補聴器、早期教育というこの10年での最も新しい聾教育の動きが、このイロイロ市で始まるお手伝いをするのであれば、多分、ミナ氏も喜んでくれるのではないかと思います。

- 最初に日本の聾学校の教育システムをお話しします。
- 就学前は2つのセクションに別れています。
- 0～2歳児までが乳幼児相談室で我が校では川島先生が担当しています。
- 3～5才は幼稚部です。日本は今、少子化のため、在籍児は
- 10名しかいません。不定期の20名近い子どもが、教育相談を利用しています。

Educational system

- 0 to 2 years old P.I. P.
- 3 to 5 years old Kindergarten Department
 - 3 years old is grade
 - 4 years old is grade
 - 5 years old is grade**

- 私は現在5歳児学級を担当しています。
- 3人を3歳から、4歳に一人、5歳でもう一人入学し、現在5名です。
- 5人のプロフィールを紹介します。

C1

- **He was identified at 6 months.**
- **His parents and elder brother are deaf.**
- **He has been enrolled in deaf school for 5 years. His right ear is 84 dB, left ear is 79 dB.**

C2

- **He was identified at 10 months.**
- **He has been enrolled in deaf school for 5 years.**
- **His right ear is 90 dB, left is 98 dB.**

C4

- He was identified with H.I. At 3 years old 5 months
- He is sensory neurons deafness
- His right ear is 84dB, left is 83dB.
- His lower frequencies are normal to mild level, so that his identification was delayed.
- He has been enrolled Deaf School for 3 years.
-

C5

- She was identified at 5 years old due to Otitis Media since 3 years old and her hearing level is moderately severe.
- She was able to speak but she complained of not hearing TV sounds when she was 5 years old.
- She has been enrolled in deaf school for 8 months.
- Her right ear is 72 dB, and her left ear is 60 dB.

- この5人のITPAの結果から次のようなことが分かります。
- 生後6ヶ月で来校したC1、10ヶ月で来校のC2、16ヶ月で来校のC3は、言語学習年齢が生活年齢に近い状態になっています。生活年齢は健聴児の平均と同じですので、
- 平均に近い言語と知識の発達を遂げています。41ヶ月で来校したC4は、言語学習年齢は低くなっています。C5は、聴力が72dB、60dBと中等度難聴でありながら言語学習年齢が低い結果になっています。
- これを見ても早期発見と早期教育は、良い成果をもたらすことが分かります。
- 次に聴覚活用の状態と会話力、読み書きの力について、ビデオを見ながら説明させていただきます。

- C2は両耳90デシベル以上で、最重度難聴です。
- しかし、聴覚を活用して話し言葉を理解することが出来ます。
- 私の経験では、かつて60～70dBの中等度難聴の子どもと同じような聴性反応です。
- それが90dBでも可能だというのは、早期発見、早期補聴、早期発見の成果と感じます。
-
- 最初にC2の補聴器の点検の様子をビデオで見てもらいます。
-
- これは、補聴器の作動状態と子どもの聴力の変動がないかを確認するもので、毎朝行っています。

Making use of hearing sense

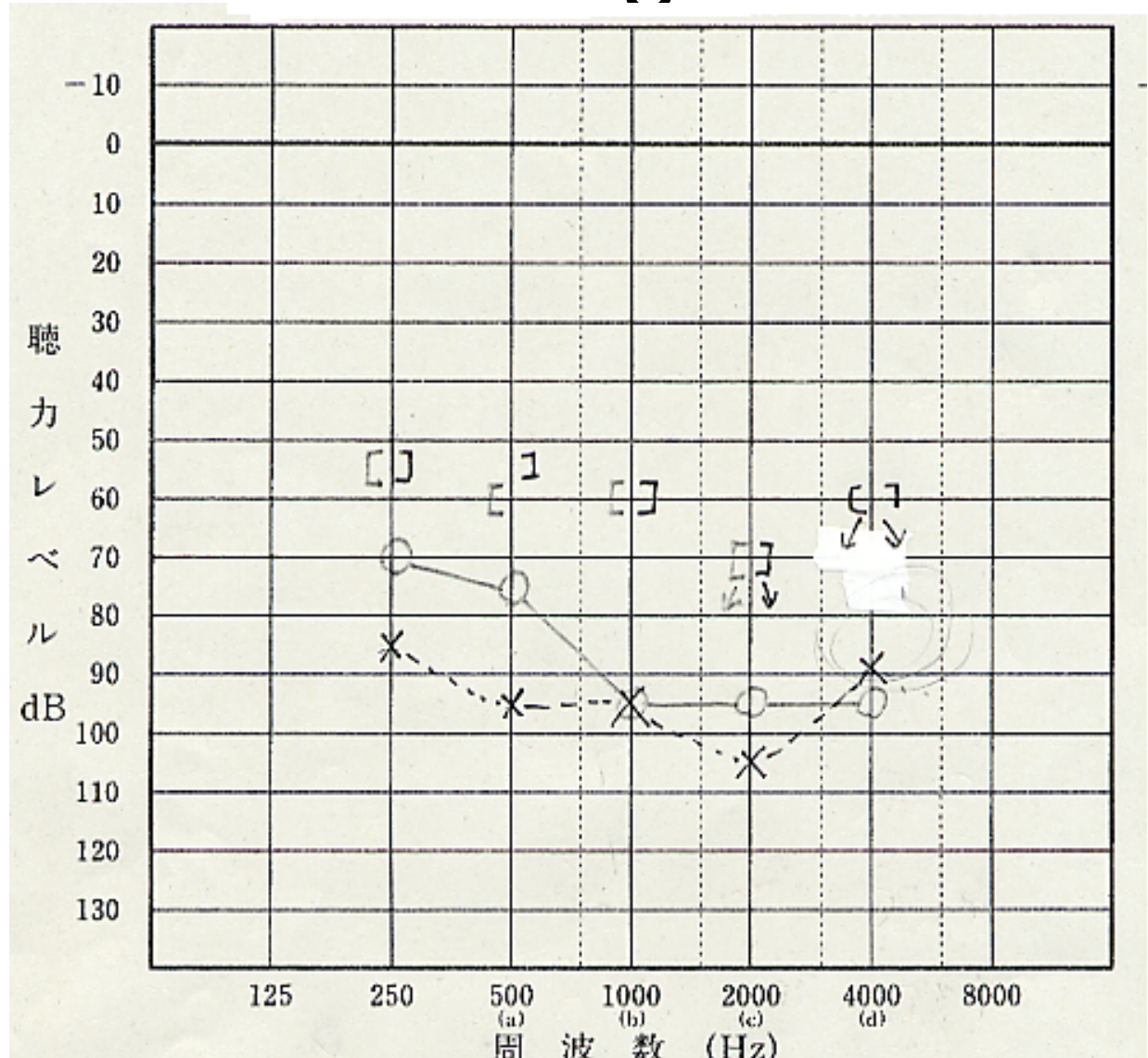
- C 2

Profound level

Right Ear 90dB

Left Ear 98dB

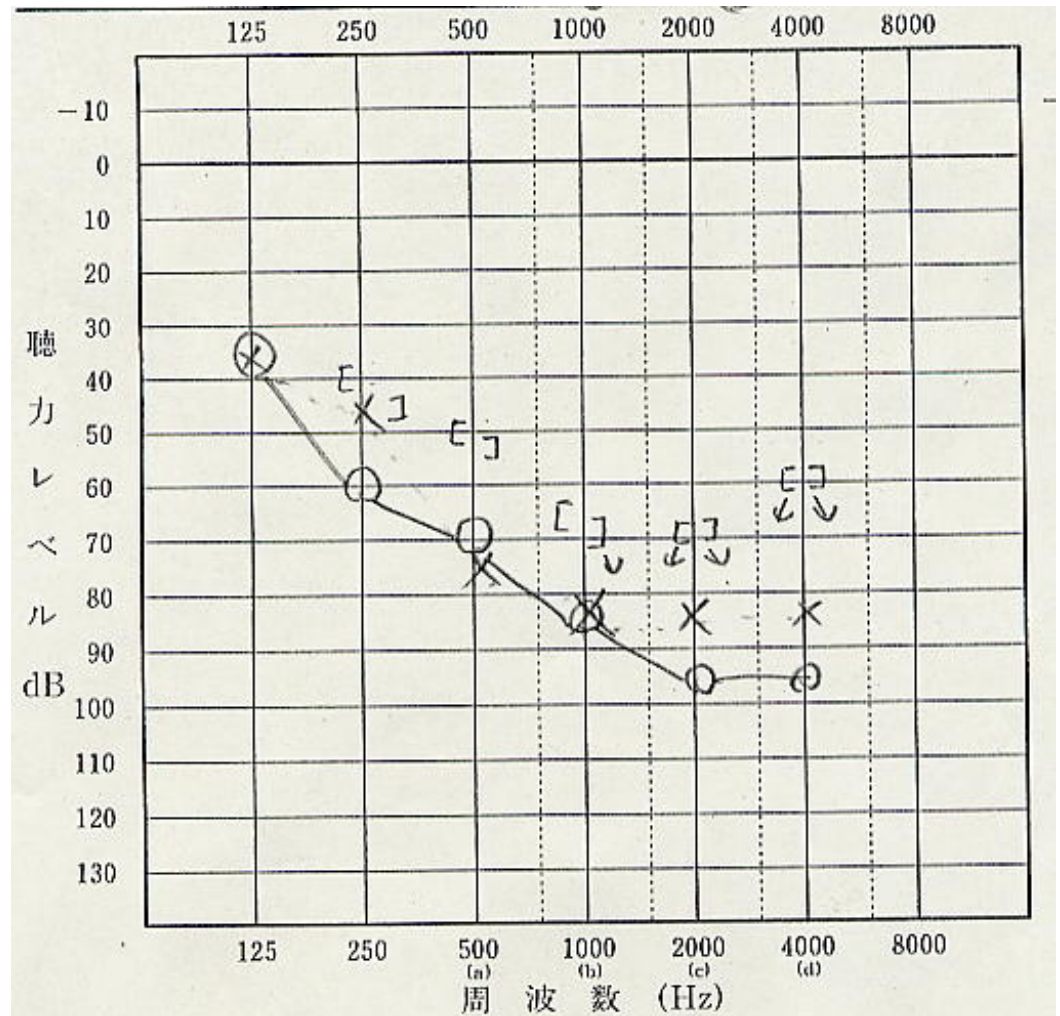
He started education
at 10 months.



- 続いて、「N」音の聞き取りの指導をしているビデオを見てもらいます。
- 「N」音は、250～500Hz付近、中心的な周波数があるので、C4のように低音の聴取がよく、高音が厳しい子どもでも聞き取れると思います、一斉指導の中で指導しました。

Making use of hearing sense

- C 4
- Sever level
- Right Ear 84dB
- Left Ear 83dB
- He started education at 41 months.



- ..¥Video¥3. 補聴器の点検.avi

- ..¥Video¥4. 「ぬ」の聞き取りと表記
(caption).avi

- 次にコミュニケーションの技能の状態を見ていただきます。
- これは、毎日1時間行っている言葉の指導の様子です。
- この指導は、トピックスと呼ばれる自由会話の手法を採用しています。
- それは、家庭でお母さんが子どもと会話する中で言葉を身に付ける方法に最も近い指導方法の為です。
- 教師にとっては、通常という言葉の指導より指導技術が必要なため難しいのですが、聞こえる子ども達が言葉を身に付ける道筋と同じのため、母親の子育てには取り込みやすい手法です。
- 子どもの興味のあること、理解できることを話題として取り上げ、子どもの表現意欲を高めます。
- 表現された動作や簡単な言葉を適切な言葉に置き換えることで、言葉の獲得を目指します。
- 年齢が小さい子ども、言葉が遅れている子どもには大変有効です。
- 話題は、3歳児の場合、具体物や動作を中心に今、目の前にある分かりやすいことを取り上げ、表出意欲を高めます。

- 4歳は経験したことを元に簡単な話言葉で表現できるようになります。
- 5歳では言葉の表現力を高めることを狙いますが、ことばだけで理解できることが増えるので、経験がないことや抽象的な事柄も理解できるようになります。
- これから見てもらうビデオも年寄りが喉に餅が詰まって死んでしまったという見たことも聞いたこともない話です。
- このように経験がない話を理解し、子ども自身の生活に関連付けられるようになったのは、この2ヶ月のことです。
- このレベルに到達すると小学部での学習も、ほぼ健聴の子どもと年齢同様の内容が理解できるようになります。
- ビデオは13分です。

- このような子どもの力は、学校の教師の努力だけで育てられるものではありません。
- 乳児や幼児の場合、家庭での教育力が特に大切です。
- 幼児までの教育は、家庭が主体であると考えて、家族が教育に当たる方が子どもの成長は期待できます。
- 幼稚部では、個別指導の時、必ず「絵日記」を扱います。
- これは、家庭で起きた出来事をお母さんが4コマの絵と文章で整理したものです。家庭での関わりが十分だと題材にも事欠きませんし、子供も既に経験してよく分かっている内容なので
- 安心して話し合うことができます。
- ところが、関わりが足りないと、経験したことが言葉や他の手がかりで意識されていないために、再現が難しくなります。
- 従って、家庭での親子の関わり状態を把握したり、関わり方を改善するには、最も効果的な方法だと感じています。
- 5歳児の3学期の絵日記は、4コマで書かれた経験を説明することは、簡単なことになっています。
- 表現力を高めるために文章を全て覚えたり、文章を読んだり、自分で文章を書くことも始めます。
- ビデオは、5分です。

Communication Skill

- [..¥Video¥5. Choking rice cakes.avi](#)

Homework

- ..¥Video¥6. 絵日記(小蠅).avi

- 最後に、学校の文化祭で10月に発表した劇「ブレーメンの音楽隊」をご覧ください。
- 子ども達が話し言葉や音の有用性を劇の活動に生かし、楽しく活動している姿を見ていただけると思います。
- ビデオは3分です。

Dramatic expression

- ..¥Video¥7. ブレーメンの音楽隊.avi

Thank you very much